

国府宮駅周辺まちづくり構想について

目 次

I 国府宮駅周辺再整備の位置付け	… 1
II 検討の経緯	… 2
III 駅前まちづくりの考え方（駅まち空間）	… 3
IV 課題の整理 （アンケート結果、現状の「駅まち空間」の問題点）	… 4、5
V 国府宮駅周辺まちづくり構想 （駅周辺まちづくりの考え方、「駅まち空間」のゾーニング）	… 6、7

令和7年6月14日

稲沢市まちづくり部都市計画課 国府宮駅周辺整備推進室

I 国府宮駅周辺再整備の位置付け

稲沢市ステージアッププラン（平成30年度～令和9年度）



名鉄国府宮駅周辺の再整備

本市がリニアインパクトを取り込むためには、民間投資を本市に向ける必要があります。ＪＲ稲沢駅周辺の開発が一段落した現在、名古屋駅周辺から波及すると予想される開発需要を受け止めるポテンシャルが最も高いのは名鉄国府宮駅周辺です。このポテンシャルを顕在化させるには、名鉄国府宮駅が持つ交通利便性に頼るだけでなく、周辺地区における中心市街地としての都市機能を強化し、にぎわいを創出していく必要があります。その道筋を付けるために名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます。

① 駅周辺機能の強化（名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅） ① 重点戦略

中心市街地としての都市機能を誘導し、にぎわいの創出を図るため、名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます。また、ＪＲ稲沢駅周辺の公共公益業務用地の有効活用を図ります。

稲沢市都市計画マスタープラン（令和2年度～令和11年度）



1. 都市づくりの目標

上位計画である『稲沢市ステージアッププラン』の「稲沢市が目指すまち」を実現するため、前章で示した都市づくりの基本的課題を踏まえ、都市づくりの目標を設定します。

稲沢市が目指すまち

■市民が、将来もずっと暮らし続けるまち ■名古屋圏で働く人が、暮らしの場として憧れるまち

実現

都市づくりの目標

基本的課題

- 将来の人口減少・高齢化に対応した都市構造の構築
- 中心市街地（名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅周辺）の活性化・にぎわい創出
- 人口減少に歯止めをかける計画的な住居系新市街地の形成
- 市民の移動を支える公共交通や道路の交通ネットワーク構築

都市構造

都市づくりの目標

■暮らしを便利にする都市づくり
名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅周辺への都市機能の集積を強化するとともに、それら都市機能を支える居住を誘導し、コンパクトで魅力的な中心市街地の形成による市民交流の活性化を目指します。また、市街化調整区域*の鉄道駅、支所及び市民センター周辺において日常生活を支える拠点形成を目指します。さらに、容易に中心市街地や主要な施設にアクセスできるネットワークの形成・充実を目指します。

都市活力

- 産業振興や、さらなる産業立地の受け皿の確保
- 本市の特色である植木産業をはじめとする農業の振興
- 本市に分布する観光資源を生かした観光の振興

■本市の立地優位性を生かした産業の活力に満ちた都市づくり
名古屋駅からのアクセス性や広域交通条件に恵まれた本市の立地特性を生かし、新たな産業系市街地形成や尾張大國霊神社（国府宮）、木曽川をはじめとする本市の観光資源を生かした交流促進などにより、活力に満ちた都市づくりを目指します。

都市生活

- 市民の約６割が居住し、高齢化が進行する市街化調整区域*における暮らしやすさの維持
- 若者世代の転入を呼び込む市街地の形成
- 想定される災害リスクを踏まえた災害に強い都市の形成

■便利な生活を安心・安全におくることができる都市づくり
日常生活に必要な機能や公共交通サービスが住まいの身近に確保された生活圏構築や想定される災害リスクを踏まえた防災・減災への対応、バリアフリー化の促進などにより、便利な生活を安心・安全におくることができる都市づくりを目指します。

■若い世代が住みたくなる都市づくり
住環境、教育環境の整備や通学・通学の利便性の確保など、若い世代が生活をおくるうえで必要な環境を整えることにより、若い世代が住みたくなる都市づくりを目指します。

都市環境

- 社寺林、農地や木曽川など豊かな自然環境の保全
- 公共交通や自転車の利活用促進による環境負荷の低減

■本市の豊かな自然が感じられ、環境負荷が小さい都市づくり
本市の社寺林、農地や木曽川など豊かな自然環境の保全、公共交通や自転車の利活用促進による環境負荷の低減により、豊かな自然が感じられ、環境負荷が小さい都市づくりを目指します。

都市運営

- 既存ストック*を最大限生かしたインフラ施設の長寿命化などによるコスト削減
- 必要な公共サービスの維持と施設量の適正化

■次世代に引き継ぐ効率的な都市づくり
鉄道駅などの既存ストック*を最大限活用した都市基盤施設*の整備や公共施設の再編・総量適正化を行うなど、人口減少・超高齢社会*に対応した次世代に引き継ぐ効率的な都市づくりを目指します。

➤ 国府宮駅周辺再整備の目標：中心市街地としての都市機能を強化し、にぎわいを創出する

Ⅱ 検討の経緯

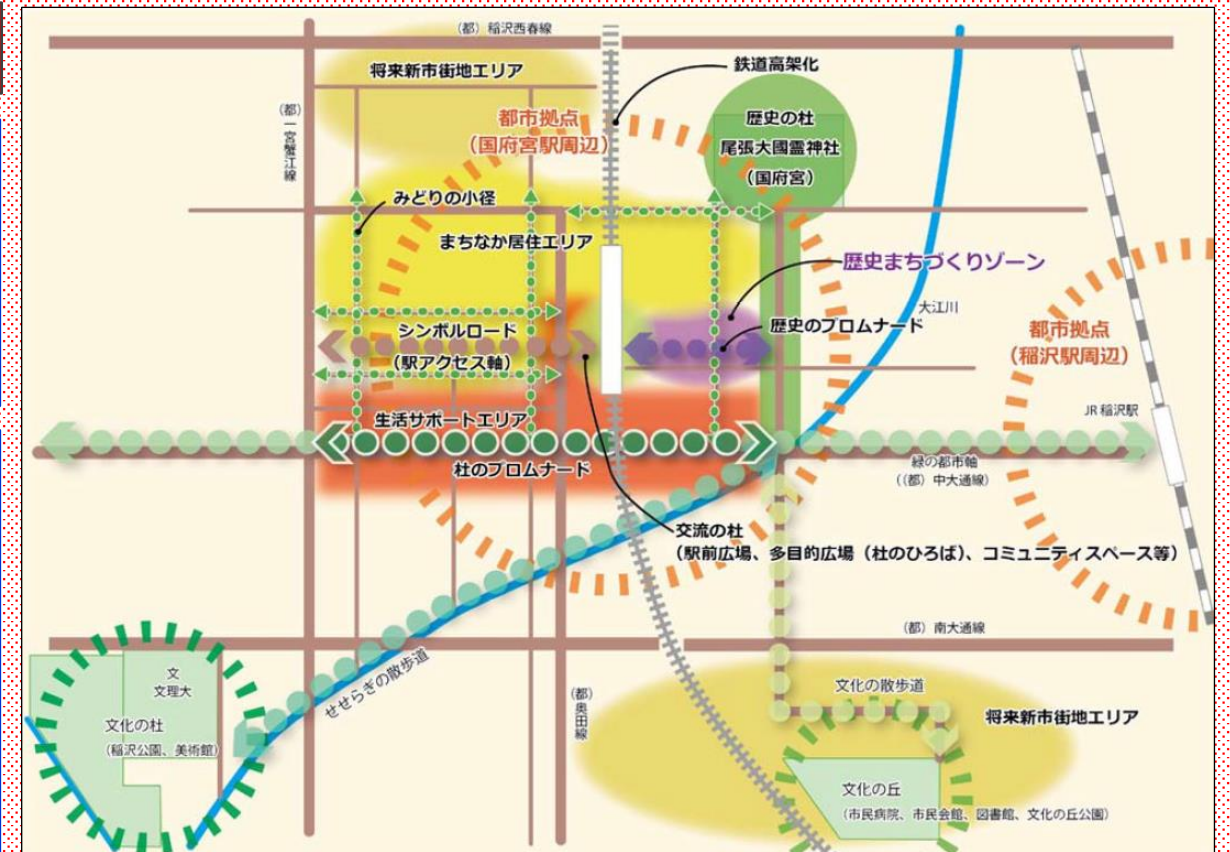
国府宮駅周辺まちづくり基本計画（平成31年3月）

コンセプト

『大都市名古屋の近郊で、緑と歴史を身近に感じられるまち・国府宮』
国府宮駅東西の市街地が一体となり、歩いて暮らしやすい、賑わいと活気生まれる
“まちなか生活中心地” づくり

基本方針

- ◎ 本市の玄関口である国府宮駅前において、**居住の場の確保と魅力アップのために必要な要素（生活サポート・質の向上）**を備えたまちづくりを展開
- ◎ 多くの人が集う国府宮駅前において、**ふれあい・交流の場の確保**を進めるとともに、**駅東西の市街地が一体となり、歩いてまちの魅力を楽しめるまちづくり**を展開
- ◎ 「公共交通利便性」の活用・充実、住む人が長く住み続けることができる・住み続けたいとなるような「安心・安全」の確保
- ◎ まちへの誇りや愛着心を育む「**まちの個性**」づくり（地域固有の歴史や文化等を活かしたまちづくり）を展開



国府宮駅周辺再開発基本計画（令和2年3月）

長期ビジョンのコンセプトや基本方針を念頭に、喫緊の課題の解決に向け、**短期的に取り組むまちづくりの方針（駅西側の整備）**を整理

- ◎ 駅西側は**駅前広場の整備改善**
駅東側は歴史まちづくりゾーンの玄関口づくりに配慮しながら、**安全で快適な交通処理空間**を確保。
- ◎ 駅西側の駅前広場の整備改善にあたっては、**安全で快適な交通処理空間**に加え、駅利用者や国府宮神社参拝客を惹き付けるため、**交流・にぎわい創出に寄与する空間**を確保。
- ◎ 西側街区では、**市民・駅利用者**の日常生活を支える機能の**受け皿**を確保。



※鉄道高架化の影響範囲を考慮した
最低限の区域での再開発事業を検討

短期ビジョンの見直し検討（令和5年度～）

令和3年度

鉄道高架化の「費用便益分析」を実施

令和4年度

鉄道高架化の「一時凍結」を決定

**新たな整備手法や区域設定を視野に
様々な角度から計画を見直すことに
※鉄道範囲等を含めたまちづくり検討**

名古屋鉄道株式会社に対し、国府宮駅
周辺まちづくりへの協力を依頼

令和5年度～

短期ビジョンの見直し検討に着手

見直しのポイント

- ・ 駅機能の改修検討
- ・ 鉄道東西を繋ぐ歩行者ネットワークの形成
- ・ 駅東側の駅前広場整備及び国府宮へと繋がる観光まちづくり など

新たな「まちづくり構想」

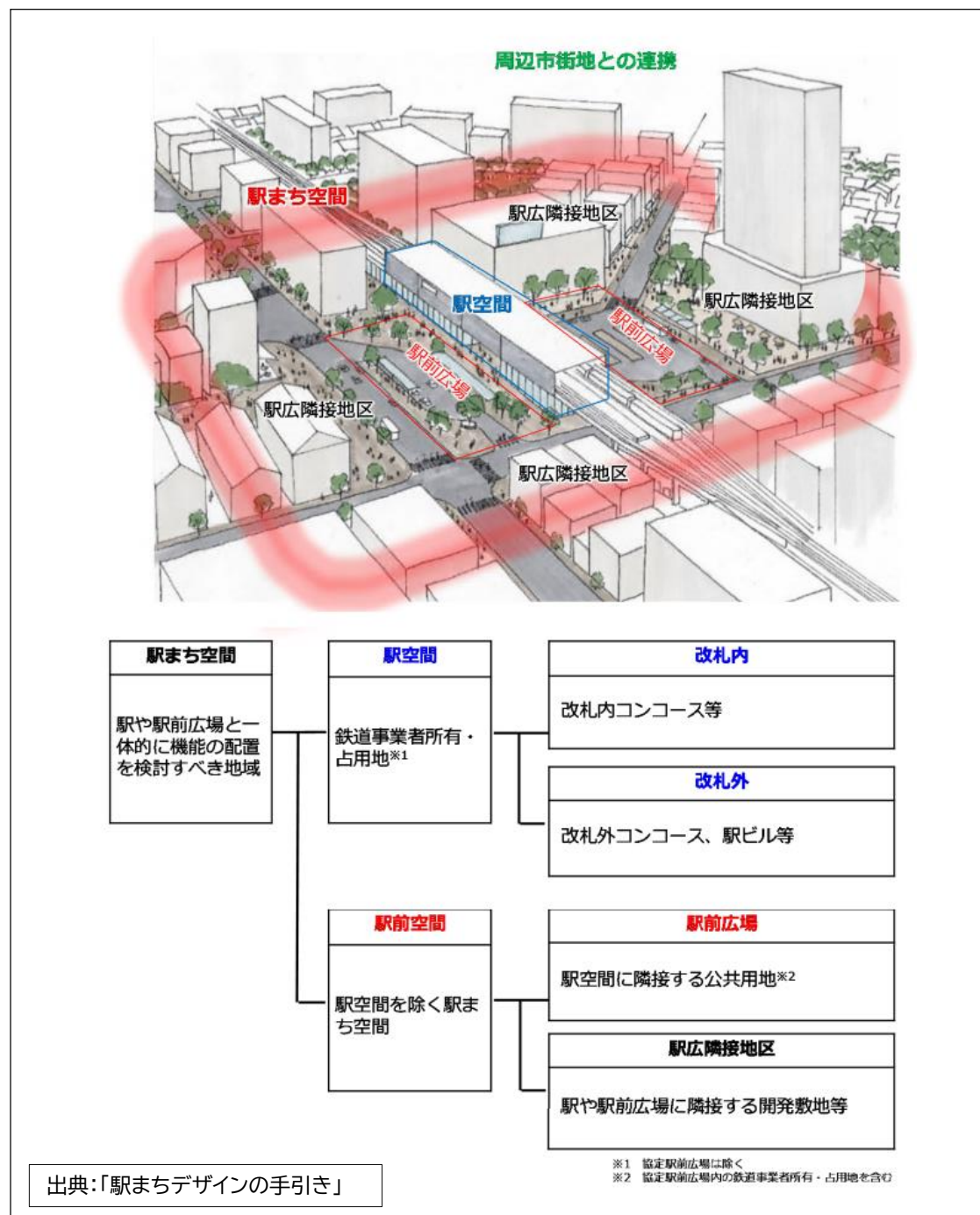
駅周辺まちづくりの考え方
「駅まち空間」のゾーニング

Ⅲ 駅前まちづくりの考え方（駅まち空間）

■ 駅前まちづくりの考え方

国土交通省「駅まちデザイン検討会」がとりまとめた「駅まちデザインの手引き」では、駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係も踏まえ、必要な機能配置を検討することが期待される空間を「駅まち空間」としている。

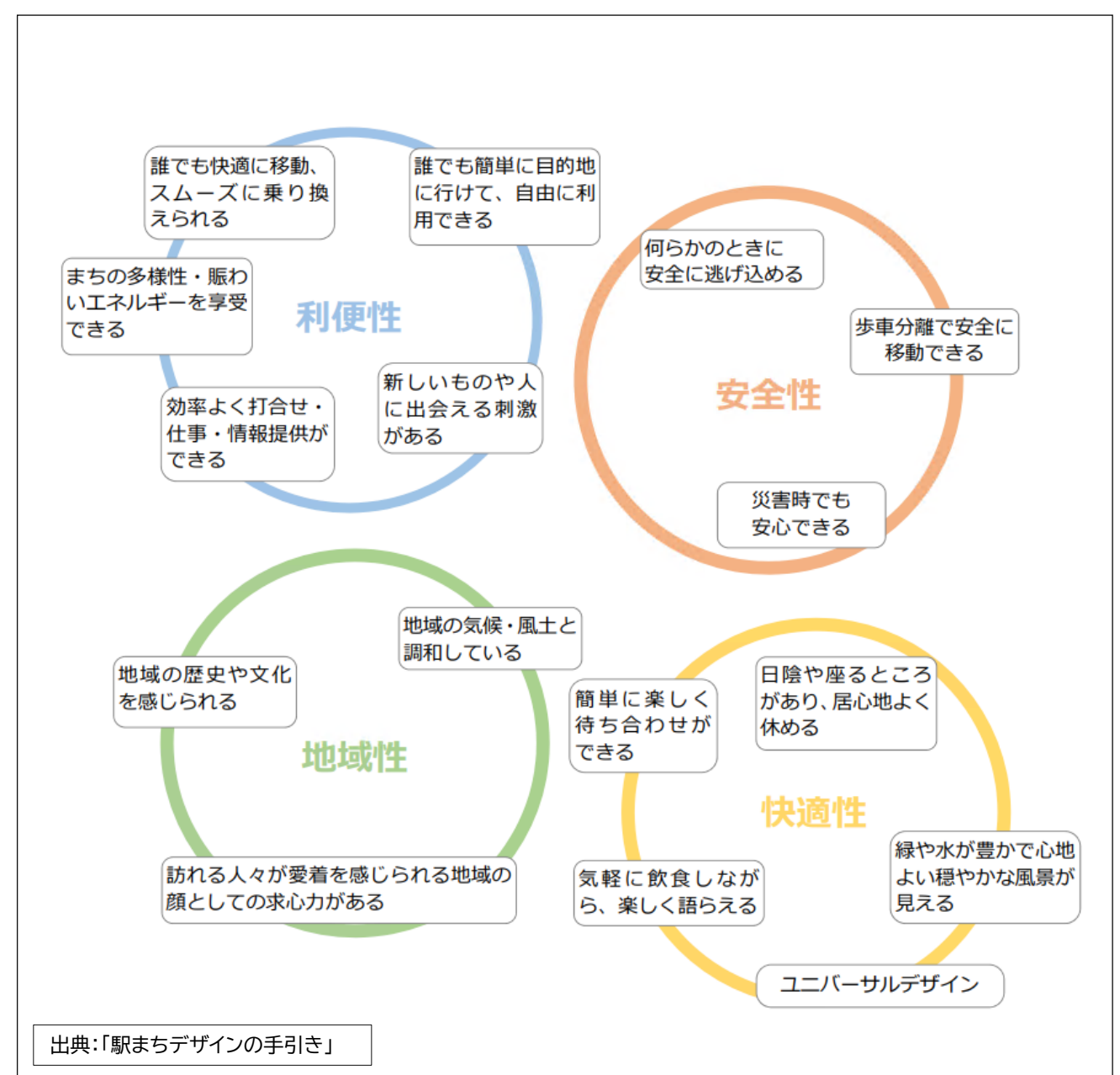
【駅まち空間の範囲】



■ 「駅まち空間」に求められる視点

「駅まちデザインの手引き」では、駅まち空間の形成にあたっては、「利便性」「快適性」「安全性」「地域性」の4つの視点から、駅まちに対する利用者のニーズに対応することが必要としている。

【駅まち空間のデザインにおいて重視する事項】



IV 課題の整理 ①（国府宮駅周辺再整備に関するアンケート結果）

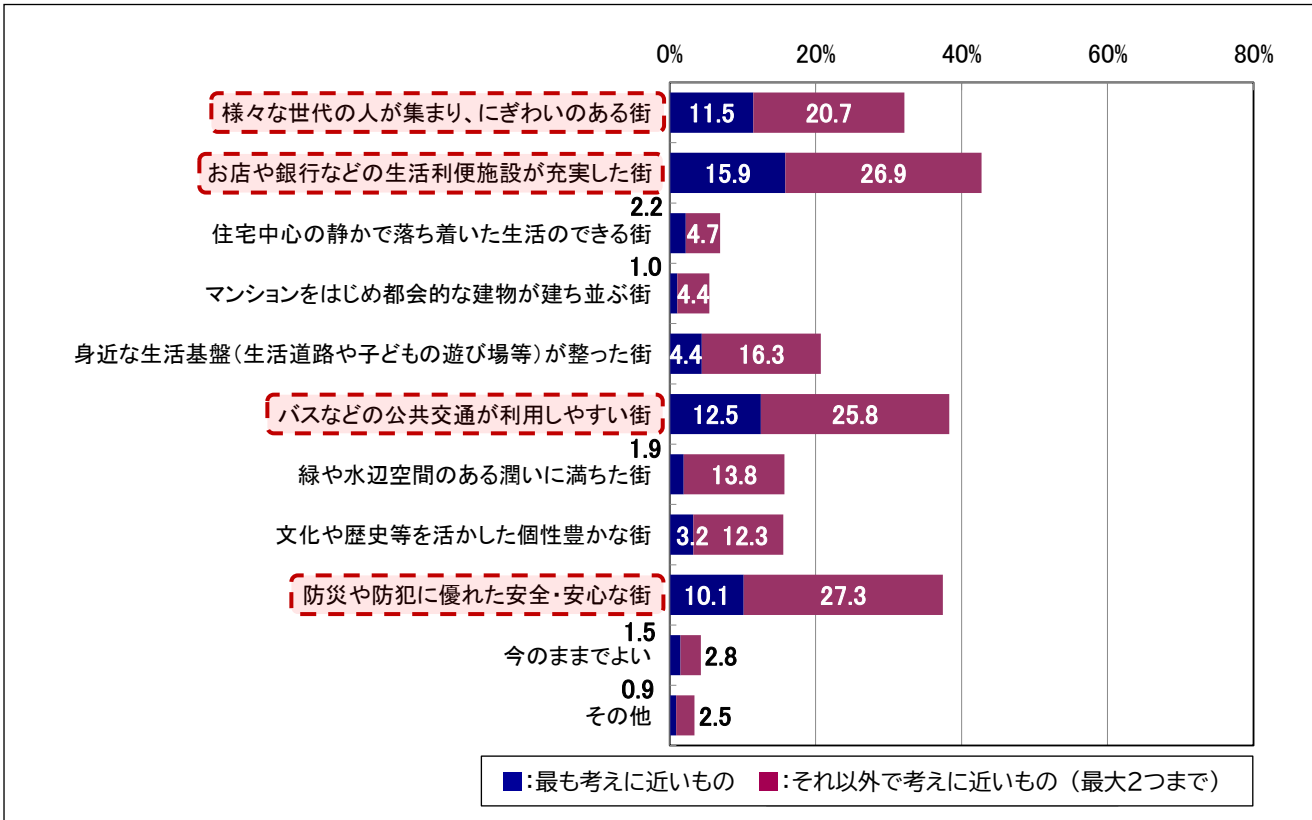
国府宮駅周辺の状況に対する重要度と満足度

重要度は高いものの満足度が低い項目（＝特に対応が求められている項目）

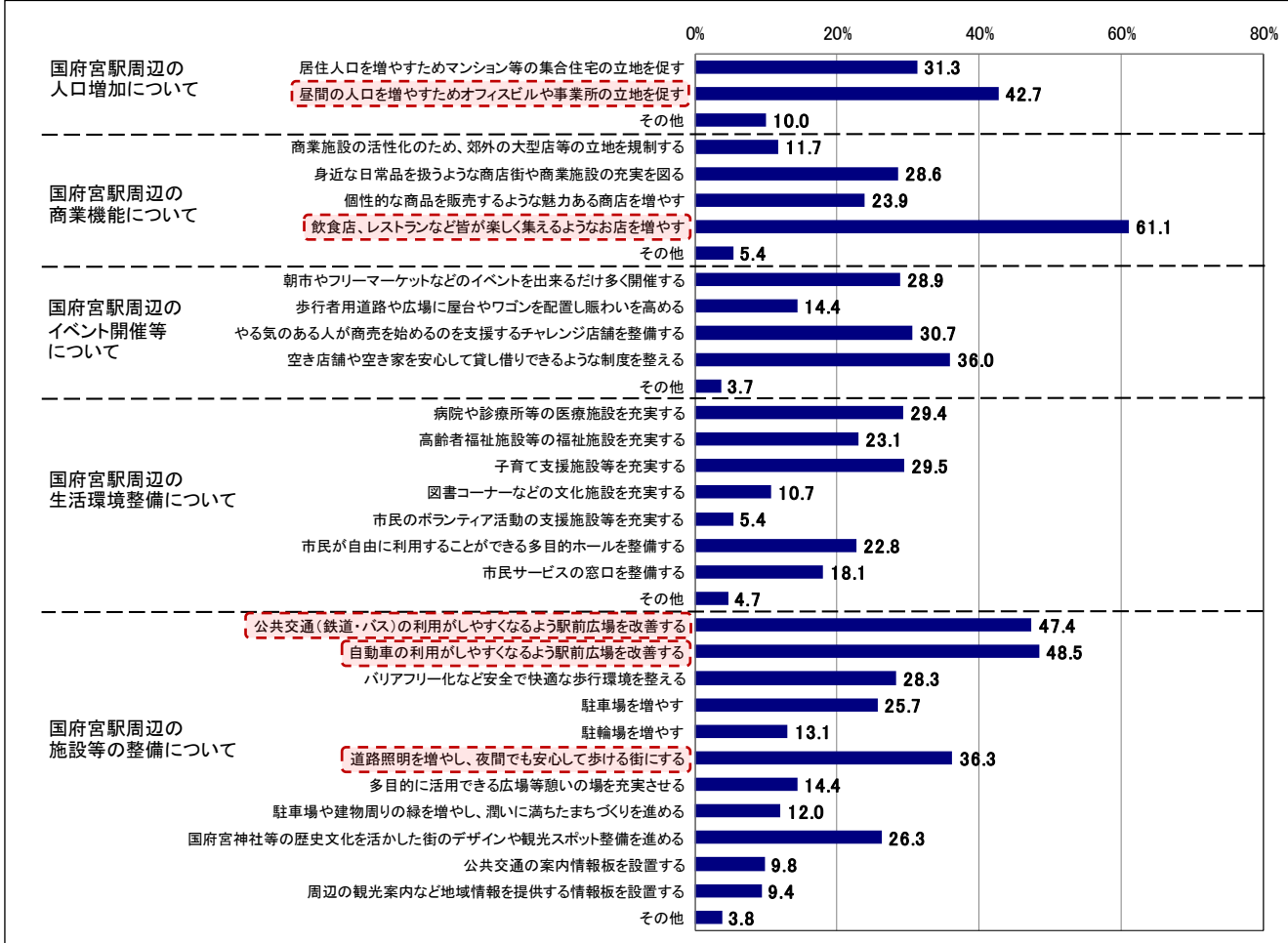
市民：★ 駅利用者：★

①名鉄名古屋本線の運行頻度について	★⑫国府宮駅周辺への車での行きやすさについて
②名鉄国府宮駅の施設の利用のしやすさについて	★★⑬歩行者や自転車が安全に利用できる道路について
③国府宮駅で利用できるバスの運行頻度について	★★⑭お年寄り、子ども、身体の不自由な人も不便や不安がなく歩ける道路について
④バス乗り場の利用のしやすさについて	★⑮国府宮駅周辺の商業施設の種類の数について
⑤タクシー乗り場の利用のしやすさについて	★⑯国府宮駅周辺の商業施設の魅力や質について
★★⑥車での駅前広場の利用のしやすさについて	★⑰国府宮駅周辺の飲食店の魅力や質について
★⑦国府宮駅周辺駐車場の利用のしやすさについて	⑱国府宮駅周辺の緑の多さについて
⑧国府宮駅周辺駐車場の駐車料金について	⑲国府宮駅周辺の街並みの景観について
⑨国府宮駅周辺全体としての駐車場の収容台数について	⑳国府宮駅周辺の文化施設・福祉施設等の生活に密着した公益施設の利用のしやすさについて
⑩国府宮駅周辺駐輪場の利用のしやすさについて	㉑国府宮駅周辺の治安について
⑪国府宮駅周辺全体としての駐輪場の収容台数について	㉒国府宮駅周辺で開催される祭りやイベントについて

国府宮駅周辺が将来どのような街になると良いか



今後力を入れるべき取組み



平成28年12月に実施したアンケート結果から抜粋

「国府宮駅周辺再整備」に求められていること

< 交通空間の整備 >

- ・一般車、公共交通の利用がしやすくなるよう駅前広場を改善する
- ・歩行者や自転車が安心、安全に通行できる道路空間の整備 など

< 賑わいの創出 >

- ・飲食店など、皆が楽しく集える生活利便施設が充実したまち
- ・昼間の人口を増やすための事務所等の立地誘導 など

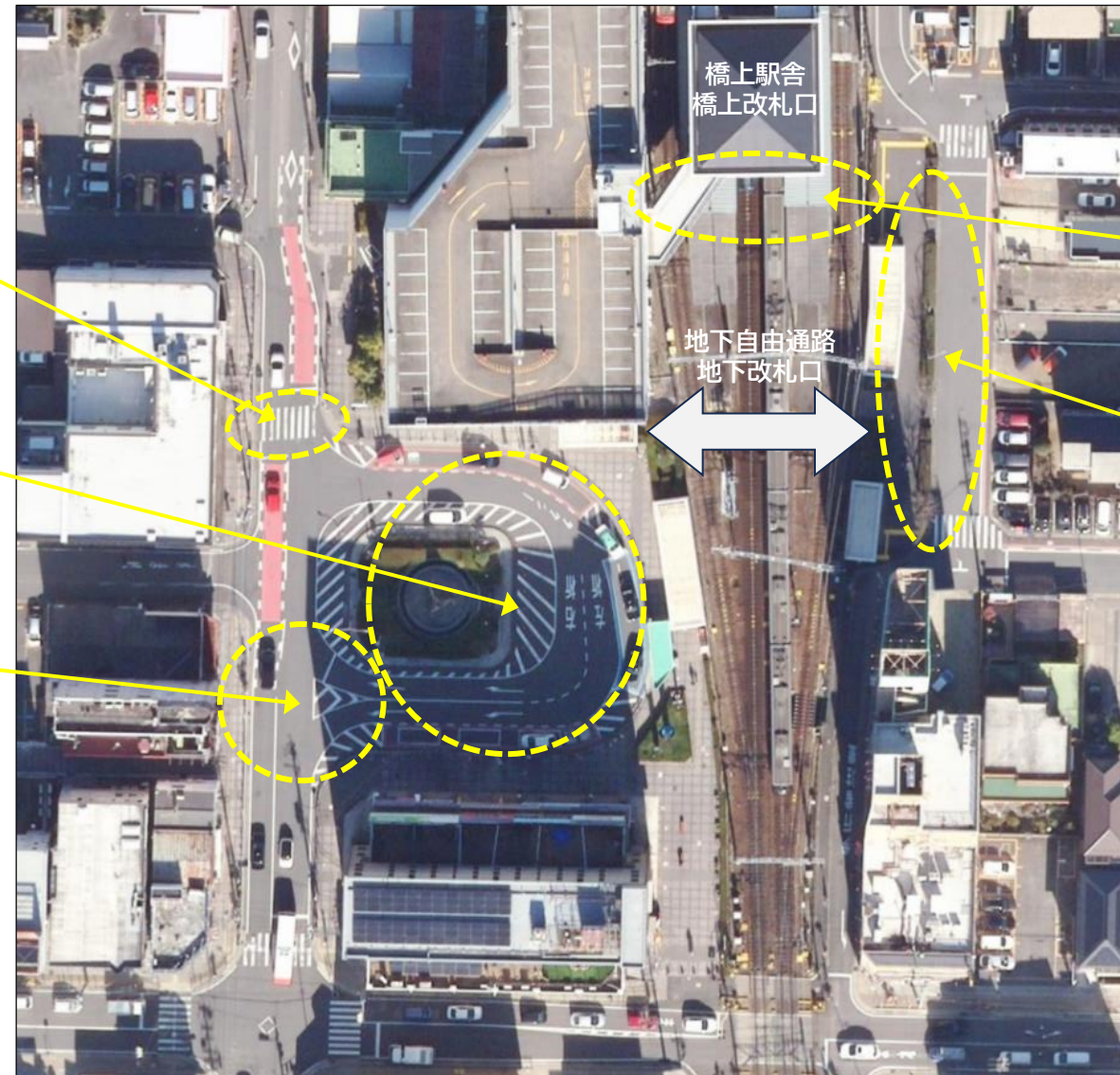
IV 課題の整理 ②（現状の「駅まち空間」の問題点）

西口における問題点

駅前広場入口付近に横断歩道があり、自動車交通の滞留が発生している。歩行者・自動車共に通行量が多く、交通事故が発生する危険もある。

一般車、企業バス、スクールバスの利用が混在している。乗降スペースが不足し、広場内外の車道上での乗降が発生している。

駅前広場出口付近では、右折交通と奥田線本線の交通との合流や、南側の信号交差点との距離が短いことによる自動車交通の滞留が発生している。



東口における問題点

橋上改札口から東口へのルートが未開設のため、東側からの車イス等のアクセスが不便であり、バリアフリー水準の向上が必要。

東口に駅前広場が無いため、西口に比べ、企業の送迎バスや一般乗降者の交通利便性・安全性が劣る。

駅前のまちとしての問題点（魅力の不足）

カフェや飲食店の立地が少なく、駅前で滞在できる空間が乏しい。

緑や照明等の修景施設が少なく、まちに潤いが乏しい。

西口



朝の交通流動状況

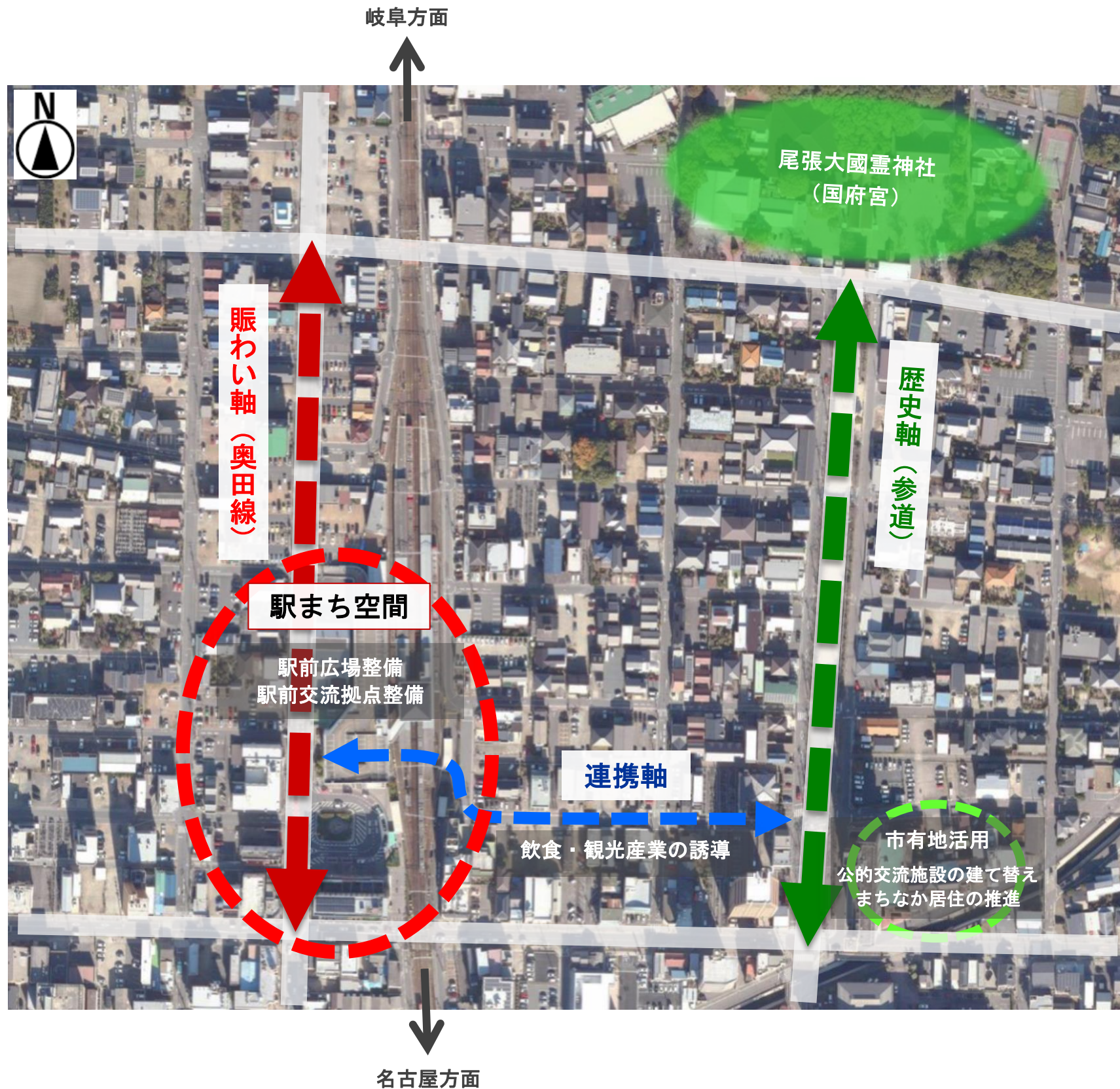


東口



送迎バスを待つ人々

V 国府宮駅周辺まちづくり構想 ①（駅周辺まちづくりの考え方）

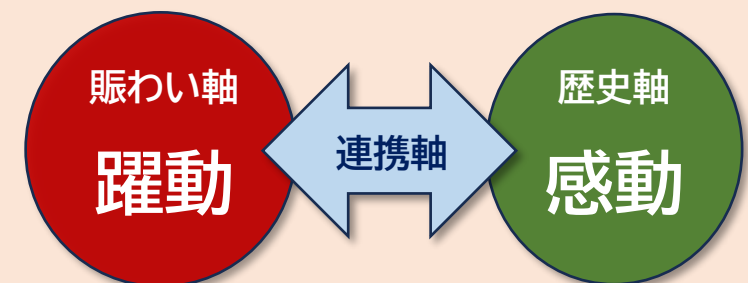


【賑わい軸のまちづくり】

国府宮駅と駅前広場を「核」奥田線を「軸」に、交通空間の拡充と、まちに賑わいを生み出す交流拠点や歩行者空間の整備を行う

【歴史軸のまちづくり】

神社・参道という歴史的・文化的資源を活用した取り組みを通して、まちに新たな賑わいを生み出す

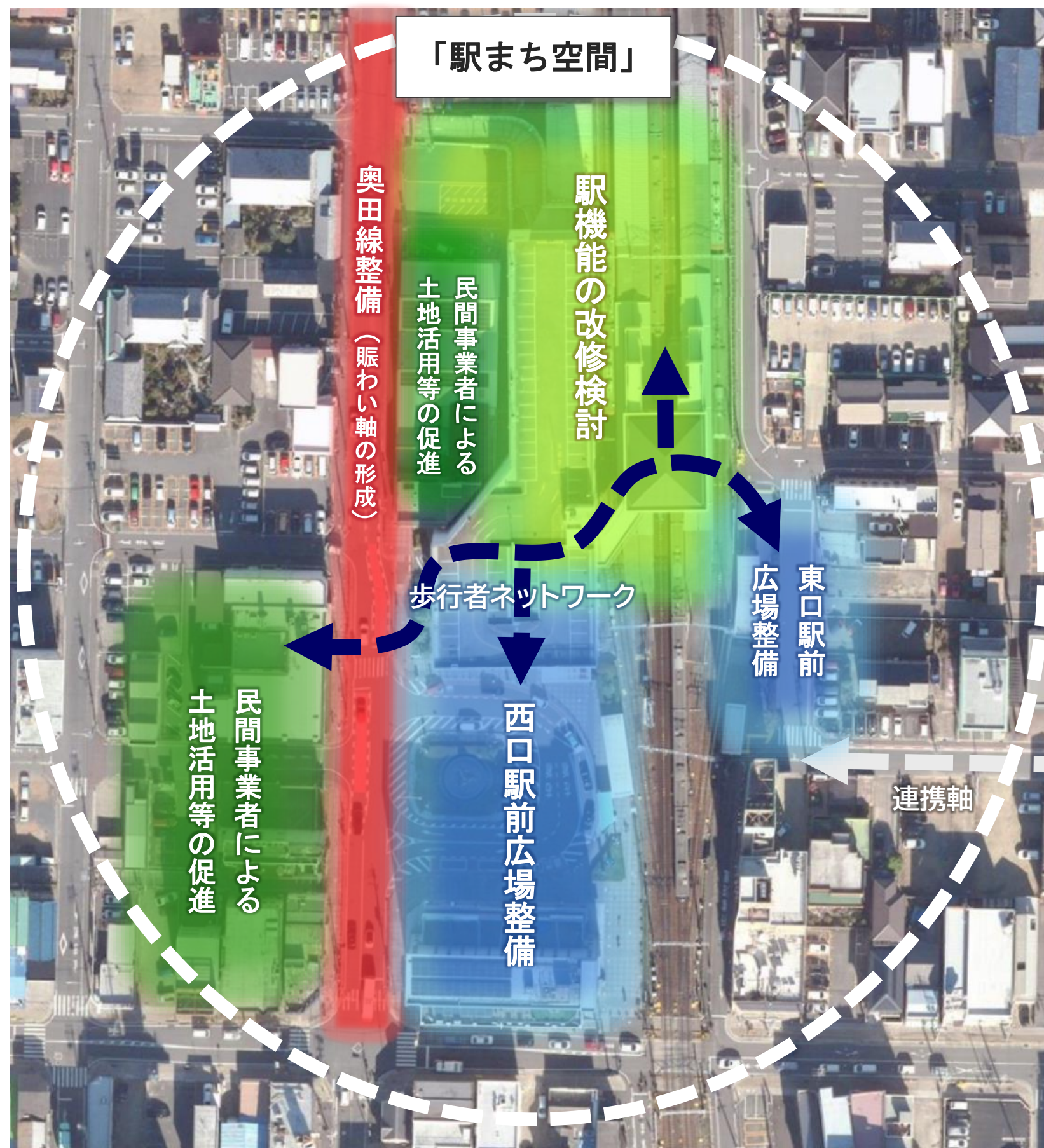


【連携軸のまちづくり】

東西のまちづくりによる人の流れを連続させると共に、駅周辺の観光交流人口を呼び込むため、飲食・観光産業の立地誘導等を行う

まちづくりの核となる「駅まち空間」の考え方（ゾーニング）を整理 <<次ページ>>

V 国府宮駅周辺まちづくり構想 ②（「駅まち空間」のゾーニング）



※ この構想は確定したものではなく、今後の調査・協議等により変更される可能性があります。

各ゾーンの考え方

◆ 駅前広場整備（西口／東口）

- 西口については、**既存の駅前広場を拡大**することで、交通空間を拡充し、一般車と公共交通の整序化を図ると共に、駅利用者が滞在できる賑わい空間を生み出します。
- 東口については、**橋上改札への通路の新設**と併せて、**駅前広場を整備**することで、バリアフリー水準を向上させると共に、駅へのアクセス利便性・安全性を強化します。

◆ 奥田線整備（賑わい軸の形成）

- 歩行者の安全・円滑な通行と利便性の増進を図るため、ゆとりある歩行空間を確保すると共に、**歩行者の滞留・賑わい空間の整備**を検討します。

◆ 歩行者ネットワークの形成

- 奥田線を通行する歩行者と自動車・自転車の動線を**立体的に分離**する「**歩行者デッキ**」を整備することで、安全性を確保します。
- 東西のエリアを「**歩行者デッキ**」で繋ぎ、まちに一体感を生み出すと共に、駅周辺のバリアフリー水準を向上させます。

◆ 民間事業者による取組の促進／駅機能の改修検討

- 民間事業者の取り組み意欲等も踏まえながら、公共施設整備と併せて、土地活用等の促進による賑わいの創出を図っていきます。

今後の取組方針

- 今後は、権利者や関係機関と協議や調整を進め、整備イメージやスケジュールを具体化し、段階的に整備を進めます。
また、西口駅前広場整備を実現するため、既存のロータリーに隣接している商業ビルの用地取得に向けた取り組みを進めていきます。